

子ども見守りサポーター養成講座 第3回 ことも食堂でできること~居場所を維持するしくみ~



日時: **2018年7月9日(月) 13:00~15:00**

場所: 四街道市文化センター 203号

講師: 高橋亮さん(こがねはら子ども食堂)

定員:50名 参加費:無料

主催・申込み:四街道市みんなで地域づくりセンター TEL: 043-304-7065 FAX: 043-422-7051

Email:info@minnade.org

講座ぶり返りの会

講座の参加者と、講座内容を振り返り 意見交換を行います。

日時:7月18日(水) 10:00~12:00 四街道市みんなで地域づくりセンター

社会をたのしくする障害者メディア『コトノネ』編集長の講演会 生きづらさを抱えた人のはたらくについて ~農業分野の事例~

千葉県内の農地を守ることを目的として、「みんなでかかわる農業=ユニバーサル農業」を進めるために、里見喜久夫さんを お招きして、『コトノネ』の取材などを诵して蓄積された全国の農福連携の取り組みや、販路拡大などについてのお話を伺います。

日時: **2018年9月10日(月)13:30~16:30**

場所: 四街道市文化センター 3階301・302

講師: 里見 喜久夫 さん (季刊『コトノネ』編集長)

定員:40名(申込締切9月3日) 参加費:1,000円(『コトノネ』1 冊代金込み)

申込み・問合せ: ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会事務局

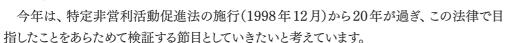
TEL:043-270-5601(土・日曜日を除く) FAX:043-270-5602

E-mail:souzounet@coast.ocn.ne.jp Facebook:https://www.facebook.com/nougyoufesta/ 主催: ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会 協力: 四街道市みんなで地域づくりセンター、四街道市地域振興財団



会員の皆様、ご支援、ご協力をいただいている皆様

おかげさまで第18回目の総会を開催、今期は役員改選期にあたり理事5名の方が退任、 3名の方に新任いただきました。新たな役員体制で今年度の事業を進めてまいります。 引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



千葉県内では現在1,997法人(内:認定法人41団体)と多くの団体が設立され、市民活動が活発になり広がりま した。また、NPO法人の活動実態調査をみると、福祉の分野(高齢者支援、障がい者支援等)では制度事業の取 組みにより事業高は伸びが目立ちます。ただ、私たちは「地域の課題を多くの市民と共有し、さまざまな活動への参 加を促す」という役割を果たしてきたのだろうか、NPOが社会に提供できるサービスは当事者ニーズに即した制度に とらわれないもの、制度の壁際のニーズを捉え、市民への共有化を図り、人、もの、資金を集めて応えることが実現で きているのか。NPOクラブはどうだったのかとふり返ると、まだ内容・量とも課題が残ります。NPOだからできること 牧野昌子

を広げていきたいと考えています。 代表理事

≪編集・発行≫ 特定非営利活動法人(認定 NPO 法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689 Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: http://npoclub.com

ブログ:http://blog.canpan.info/npo-club1

fhttp://www.facebook.com/NPOclub bttps://twitter.com/npoclub







VOL.63 2018.7



地域カ、福祉カ、市民カーチカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる~市民が主体の地域づくりを。



市民参加、協働による地域づくりを進めるために 第18回定期総会を開催しました



2018年6月2日、第18回定期総会を千葉市で開催しました。総会後には、講演会「そうだったのか。SDGs | を開催。 2017年度事業の成果と課題を確認するとともに、2018年度の事業内容を協議、決定しました。

2018年度目指すこと 2つの柱

地域づくりをコーディネートします

8年間継続サポートしてきた「四街道市みんなで地域づく りセンター |、サポートして3年目になる「とみさと市民活動 サポートセンター | に加えて、今年度から「しろい市民まちづ くりサポートセンター」の運営支援業務が始まります。3つ のセンターの運営支援を通して、地域づくりをコーディネート するとともに、講師の派遣や補助金審査に関わることなど を通して、市民参加や協働による地域づくりを進めます。



東日本大震災による避難者支援を継続します

震災の翌年から6年間にわたり継続、実施してきた「浪 江町復興支援員サポート事業」は終了しました。県内には 未だ、福島県をはじめとする東北3県から約2600人が避 難し暮らしています。避難生活が長引く中で、住居を購入、 避難先で暮らし続けることを決めた人、どうしたものかと迷 う人、状況は多様化してきました。これまで取り組んできた 2事業に加え、新たに「避難者住宅確保・移転サポート事 業|を受託実施します。団体として直接、避難者の皆さまを 支援するとともに、県内の支援活動団体と連携した活動を 継続実施することで、避難者の生活再建への支援と「震災 を忘れないこと」を促します。

「そうだったのか。 SDGs~誰一人取り残さない世界を作る」 講演会を開催

総会後、新田英理子さん(一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク/日本NPOセンター)を講師に迎えて、SDGsを自分化することをテーマに講座を行いました。(参加者33名)



SDGsとは

貧困のない持続可能な世界を次世代に受け継いでいくことを目指して作成された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)。193か国すべての国が国連総会で採択した世界規模の2030年までの行動計画の中核で、17の目標と169のターゲットでできています。「誰一人取り残さない」で尊厳ある生活を保障することを目指し、経済、社会、環境の不可分な3つの側面に統合的に対応、課題間のつながりを重視しています。

DEVELOPMENT GOALS



●テキスト紹介:『基本解説 そうだったのか SDGs - 「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」から、日本の実施指針まで-』 編集・発行 一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク販売価格 1,080 円(税込、送料別途) (NPO クラブでも取り寄せ可)

SDGs に通じる活動事例

一特定非営利活動法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)の活動発表―



JFSAは、古着や毛布、バッグなどのリュース事業を通して、パキスタンのスラムに暮らす子どもの自立を支える活動をしています。スラム住民の支援として子どもの自立を促す「教育」を支援対象とし、日本の多くの家庭が提供しやすくパキスタンでの需要が高い「古着」を資源として活かすことで、継続性のある事業を成立させてきました。事業が長年持続することにより、「支援する学校の増加、子どもたち、親たちの意識が変わってきたことなどやりがいを実感しているので、まずは自分のできることから始めることが大事だと思う」と発表者の澁谷奈々さんは話してくださいました。

なぜ、今SDGsなのか? SDGsが取り組む世界・日本の激変とは・・・

世界でも日本でも、このままでは持続不能となってしまうような次のような危機的な状況が起こっています。

問題	具体的に、世界では?	日本では?
人口の大変化	◎高齢化と人口増に同時に対処必要 ・アジアでの高齢化 ・サハラ以南のアフリカで依然続〈人口増	◎「持続不能」に直面する地域と公的制度 ・持続不能な集落と福祉制度
格差と貧困	○世界全体で格差と貧困が拡大(富裕層 62 人=貧困層 36 億人の資産)・経済格差だけでなく政治的、社会的疎外の拡大	・OECD諸国中、相対貧困率が4位 ・非正規雇用者の疎外
大量生産·大量消費	©地球が現状維持できる生産量の1.5倍を消費 している現状→できるだけ早く「地球 1 個分」の 生産・消費パターンに戻る必要	・年間の食料廃棄量1800万t (食料消費の2割以上)
気候変動	◎2100年には世界で+4度の温暖化→・CO2減らす「緩和策」・影響を軽減する「適応策」	過去5年の年間災害死者数平均(東日本 大震災・御嶽山噴火除く):188人=先進 国では最大の部類

©SDGs ジャパン 稲場さん

政府セクターでは、2016年にSDGs推進本部を設置、実施指針を確定し、 推進をはかっています。民間企業でも、これまでのCSRからの流れに加え、 投資家が注目していることから、SDGsへの取り組みは世界で加速化していま す。NPO、NGOでも、SDGsを共通の認識として、行政や民間企業と協働 で取り組みやすい領域となるはずです。

SDGsを学ぶことで、NPO、NGOが取り組む課題や活動が、他の社会課題や世界の課題とつながっているという実感がもてます。SDGsの理解の深まりによって課題間の関わりが透けて見え、自団体の活動を見直す際の参考になります。広い視点や気づきを得ることで、活動に新しさを加味でき、他分野の団体、事業者との連携の機会も得られるでしょう。活動を前年からの積み上げで考えるのではなく、2030年時の目標を設定し、そこから遡って今から何をしていくべきかと考えるきっかけに、SDGsを活用してはいかがでしょうか。



- 講座ワークから -

●「2030年にどの目標が達成されていたいですか?」「その目標を実現するためには、どの目標の達成が必要ですか?」などをテーマに、グループワークで意見交換しました。17の目標からどれかを選ぼうと自分にひきつけて考えると、他の目標とも密接にかかわっていることが実感できました。各分野の市民活動団体のほか自治体や民間企業からの参加もあったので、異なる分野、立場からの視点に触れ、視野が広がりました。また、達成したい目標は個々に違っても、「質の高い教育をみんなに」を必要な目標のひとつとして選ぶ意見が多かったことなど、共通の思いも確認できました。

受講者アンケート回答から

- ●総合的に世界で目標を持って行動しようということはすごい!と思いました。 具体的な事例を聞くことで、自分たちのこととして引き寄せやすいと思う。
- ●SDGs は特別なものでなく、日常に密接 に関連している。まず「できること」何?→ する!!
- ●自分の活動をすべての目標につなげて 考えると活動の幅が広がる。